

50号形保安器モジュール

(仕 5245 3版-3)

用途

本保安器モジュールは自動MDF（各種タイプ）をあとから導入する際、手動MDFから容易に切替ができるようにしたもので、当初は加入者用配線盤の線路立上がり側（H側）に取付け、線路成端保安器モジュールとして使用します。

自動MDFへ切替のときは、50-「J」ARR内蔵のコネクタ接続によって、自動MDF（各種タイプ）への回線収容替えを行うことができ、手動MDF部分はジャンパ線を撤去します。

なお所内側（V側）端子板は128-UTSを併せて使用します。

特長

1. 収容回線数は保安器モジュール1台当り100回線収容します。
2. 保安素子の取り替えは1回線単位で行うことが可能です。
3. 線路ケーブルへの接続はPATコネクタを、ジャンパ配線はUスリット端子を、自動MDF（各種タイプ）へのケーブル接続はコネクタ方式としているので、作業性が良く切替作業は簡単にできます。
4. 線路成端保安器モジュールとして、手動MDF、自動MDF兼用で使用できるので経済的です。

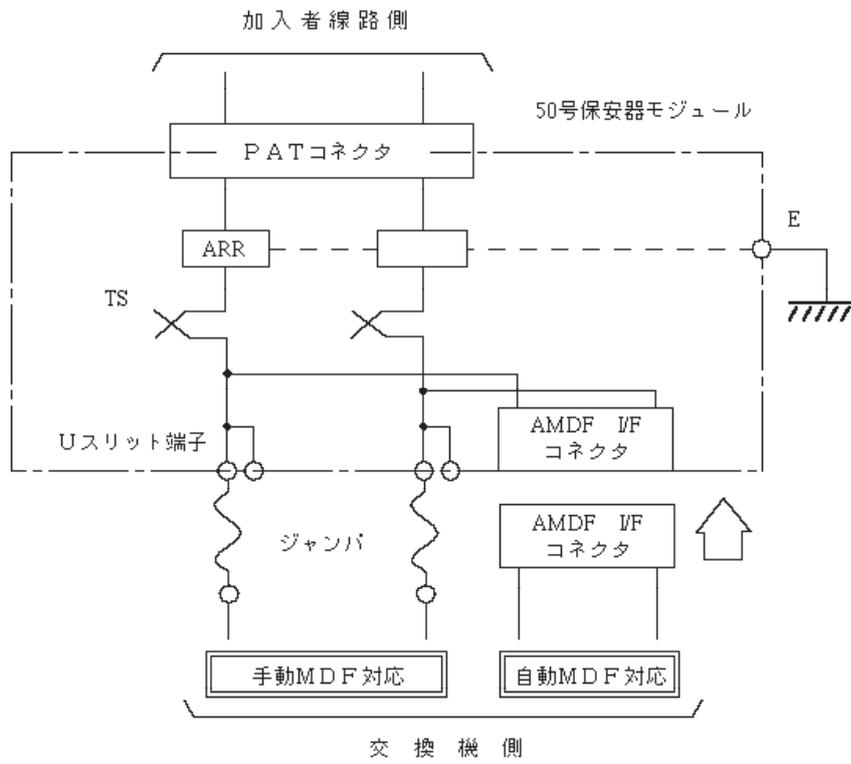
構造

1. 10回線単位のサブモジュール10個で構成し、サブモジュール毎の切替が可能です。
2. 保安素子の実装は半田付けなしで行えます。

本保安器モジュールはNTTユーザシステム部殿のご指導により開発しました。

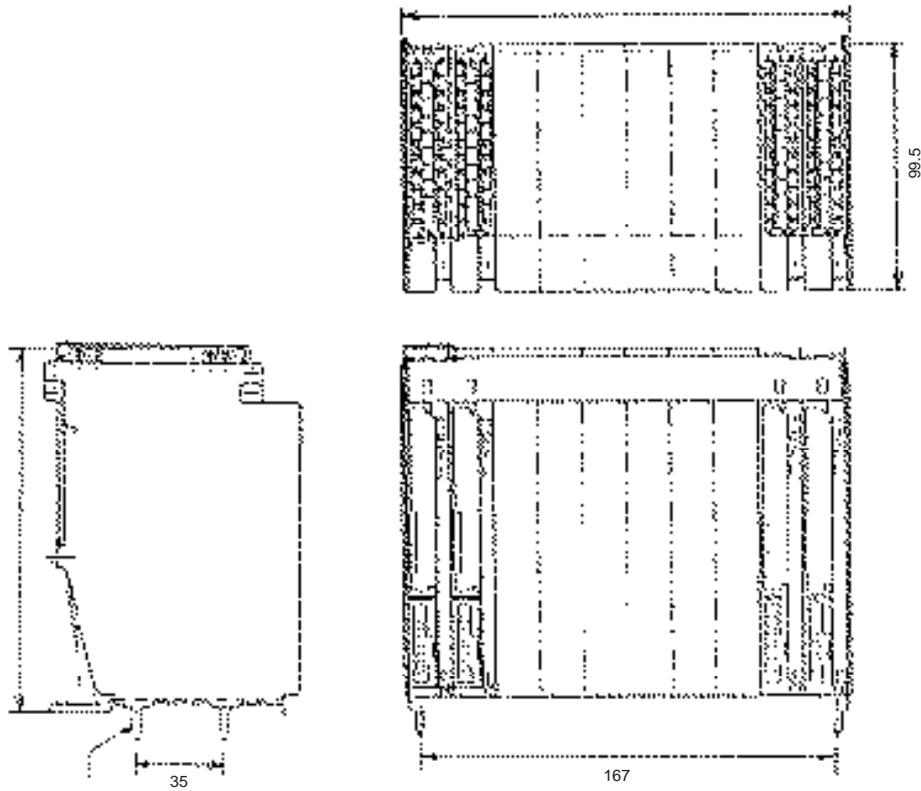


回路概略図



外形寸法図

(mm)



東京通信機工業株式会社

T E L 0 3 - 3 4 4 7 - 2 4 2 1